

## 令和2年 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年、日本は令和の時代を迎えましたが、日本とエチオピアの間では、かつてないほどの要人往来が実現した年になりました。3月アフェワーク科学高等教育国務相、5月フェレトワルク前貿易・産業相（当時）と閣僚級の訪日が続き、8月のTICAD7にはアビィ首相が参加し安部総理との会談も実現しました。さらに10月の即位の礼にはムラトゥ前大統領が参列し、安部総理への表敬訪問が行われました。また我が国からは5月河野外務大臣（当時）がエチオピアを訪問し、アビィ首相と有意義な会談を実施し8月のTICAD7への道筋をつけることが出来ました。

エチオピアでは、アビィ首相がノーベル平和賞を受賞しました。オスロにおける授賞式で行われたスピーチは、エリトリアとの戦争を軍人として身をもって体験した事実をふまえた感動的なものでした。受賞はエチオピアへの国際的な関心を高めるものでもあり、心からお祝いを申し上げたいと思います。

昨年は、日本とエチオピアのより一層の関係強化のため、様々な業務に取り組みました。エチオピアへの開発支援のため、また人道支援のために多くのODAの案件が実施されました。国際機関やNGO経由の支援も数多く行われており、また難民や国内避難民の生活を支える仕事に汗をかいている人たちがおられます。

いずれの事業も重要で立派なお仕事なので、どれかを特筆することは憚られるのですが、敢えて目立たないが私たちの日々の暮らしに直結する大事な案件として、首都アディス・アベバのゴミを集積するコシェ堆積場の整備事業をご紹介します。コシェ堆積場はアディス・アベバ市唯一のごみ堆積場であり、市内で廃棄されたゴミはすべてここに集まります。しかし、2017年3月に堆積したゴミが崩落し、堆積場で生活している住民114名が亡くなりました。

これを受け活動を開始したのが、ゴミ集積場を美化し安全なものに整備するための所謂「福岡方式」を開発した松藤康司（まつふじ・やすし）福岡大学名誉教授率いるチームでした。この方式は、ゴミの山をテラス（段々畑）状に整地するとともに、地下にガスが貯まらず空中に排出されるように、垂直パイプを一定間隔で立てていくものです。ゴミから

浸出する水分も下部にある溝に集まって流れるようになっております。日本政府は、国連機関UNハビタットを通じてこの事業を支援してまいりました。私も着任直後から何度か視察しましたが、そのたびに臭いも減り美化が進んでいるのを目の当たりにして嬉しく思ってきた次第です。松藤先生とチームの人たちが自ら現場に作業に通われ汗をかいて作業された結果、ここまでこぎ着けたことに心から敬意を表したいと思います。

令和2年の今年は、日本とエチオピアにとって国交樹立90周年の目出度い節目にあたります。また、東京で再びオリンピック、パラリンピックが開催されます。昭和39（1964）年のオリンピックと言えば、エチオピアのアベベ選手がマラソンで二度目の金メダルをとったことが日本人の心に深く刻み込まれています。今年が56年前以上に、両国の相互理解が進み友好関係が深まる年になりますよう祈っております。大使館としては、有意義な事業実施に取り組むとともに、また在留邦人、邦人旅行者の皆様の安全確保にこれまでも増してつとめていく所存です。

どうか本年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和2年 1月

駐エチオピア日本国特命全権大使

松永 大介